



家庭教育の工夫 ～我が家の場合～

校長 中村 篤

11月7日にコミュニティ・スクールとして、第2回学校運営協議会を実施しました。コミュニティ・スクールとは、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みです。「子どもたちにどのような力を身に付けさせたいか」というテーマの下、委員の皆様と熟議を行いました。熟議を通して様々な意見が出ましたが、キーワードの一つとして出てきたのが「あいさつ」と「家庭学習」です。

あいさつや家庭学習の定着を図るためには家庭の協力がとても必要になってきます。そこで家庭教育の一助となるかわかりませんが、私の家庭での子どもたちへの接し方やルールについて紹介します。子どもたちに課しているルールは非常にシンプルで、大きくは、①あいさつをする、②嘘をつかない、③約束を守る、の3つです。これを破ると子どもたちはこの3つのルールを復唱させられる羽目になります。

「③約束を守る」の「約束」については、例えば、食事中に子どもがスマホを見ていた場合、一緒に食事をしている人に失礼であることを話し、「食事中はスマホを使わないで、会話を楽しむこと」という約束をします。このように、約束事はどんどん追加されていきます。

つい先日、小学5年の息子に、ボールを投げてモンスターを捕まえるというアニメのゲームを買い与えました。当然夢中になって、延々とゲームに興じます。そこで一言、「あれ？約束が違うんじゃない？」と言うと、「わかってるよ…」と息子はしぶしぶ家庭学習を始めます。ここで発動する約束は「勉強した時間と同じ時間だけ、ゲームをやったり、動画を見たりしてよい」というものです。伝え方にコツがあり、「ゲームをやるなどは言っていないよね。勉強した分だけ、いくらでもやっていいと言っているよね」と追い打ちをかけます。ゲームを禁止されているわけではない、むしろ推奨されているのではと思わせるのがポイントです。まさに心理戦です。だましているようにも見えますが、息子にはこれが効きます。そして、その後は放っておくのではなく、翌日に漢字テストが控えていれば、家族総出でテストに向けて練習問題を出したり、頑張りを褒めたりすることで、本人のやる気を引き出すように心掛けています。

繰り返しになりますが、基本的な生活習慣（あいさつをする、時間を守るなど）の確立や基礎的な学力の定着には、学校教育だけでなく家庭の教育力も必要です。親にとって、子どもに任せきりにしたり、「〇〇しなさい」と言ったりするだけなら、こんなに楽で簡単なことはありません。大切なのは、〇〇をする必要性についてしっかりと話し、約束を決めてその約束を守らせること、そして何よりも家族が協力し、支えてあげることだと考えます。

偉そうなことを述べてきましたが、まだまだ私も子育て真っ最中です。時には激高して、取っ組み合いになることもあります。保護者の皆様と同じ子育て世代、喜びや悩みを共有できたらと思います。学校やご家庭でお気づきの点がございましたら、遠慮なくご相談ください。学校教育目標である「考える子・思いやりのある子・がんばりぬく子」の具現化に向けて、学校と家庭、地域で連携・協力しながら、子どもたちの力を最大限に伸ばせるよう努めてまいりましょう。

